

法定後第二年の

日本醫師會總會の盛況

◆神宮外苑憲法記念會館に◆

去る二十三日午前九時より法長は一場の答辭を述べた。かく定後第二年の日本醫師會第二回總會は、青山明治神宮外苑憲法記念會館に於て、盛大に開かれた。朝來の晴雲低迷も總會日和とや謂ふべきであつたらうか、定刻前來會者陸續として參集、定刻九時には既に滿場立錫の餘地なきまでになり、名も鶴の間一同の着席を見た頃は、一層の緊張味を覺ゆるに至つた。來賓としては總理大臣代理秘書官原田熊雄男爵、内務省山田衛生局長、内野防疫課長等、文部省よりは、北學校衛生課長等あり、やがて會長北里柴三郎男爵は開會の辭を宣した。次いで北島理事長は會務報告を濟し、加藤總理大臣の祝辭に移るや、代理原田秘書官は別項の如く代讀し、更に若槻内務大臣の告辭を湯淺内務次官が代讀、文部大臣祝辭を北里吉博士が代讀する等、嚴かに總會の式が擧げられ、來賓の退場後、十分間の休憩があつた。後再び一同着席し、役員候補選舉に移り、結局會長指名に一任とし、直ちに豫定の議事に移らんとしたが、議員の動議に依り、會長北里柴三郎男爵の授爵に對する祝辭を群馬齋藤壽雄老に依つて述べるに至つた。而してこれに對し北里會

總理大臣祝辭

茲に日本醫師會第二回總會を開催せらるに當り、聊か祝意を表することを得るは予の欣幸とする處なり。願ふに國民に依る、醫學の重大なる所以實に此に存す、幸にして今日醫學の發達著しく衛生の道亦大に進みたりと雖も一たび思ひを此處に致さば、更に進んで研究すべきものあるを疑はず常に病根を未然に防ぐのみならず、積極の方途を講じて健康の増進を圖るは殊に邦人民人の活力を旺盛にし以て國運を進揚せしむる所以なり。

但夫れ學術上の進歩發達の其の根柢は常に人格の上に存す、今日文明の進歩は一人の之を私すべき所にあらず、必ずや一視同仁の義を重くし、互に人道の爲にする公明なる精神に立脚して彼此共濟し以て新時代の精神を闡明せざるべからず。

冀くは本會の使命甚輕からざること深く省察せられ、會員諸君の努力勵精以て國家活力の源泉を擧げせしむるに力を致されむことを一言希冀する處を述べ以て祝辭と爲す。

大正十三年十月二十三日
内閣總理大臣 子爵 加藤 高明

【第一號議案】大正十二年度日本醫師會收支決算案
に就ては北島理事長詳細にこれを説明、一同の協賛を求め二の質問ありて讀會省略可決、

【第二號議案】醫制發布五十年紀念祝典に關する豫算案
に就ては寺邑理事より報告次の如く可決された。

(乙) 醫制發布五十年紀念祝典に關する豫算案

收入之部		算 高	
第一項 本會負擔金	四、八五〇・〇〇	第一項 紀念祝典費	六、八五一〇・〇〇
第二項 本會負擔金	四、八五〇・〇〇	第二項 寄附金	一、〇〇〇・〇〇
(說明) 大正十二年度より繰越金並		第三項 寄附金	一、〇〇〇・〇〇
大正十三年度豫算支出の部第一號第		第四項 寄附金	一、〇〇〇・〇〇
九項雜費より支出す。		第五項 寄附金	一、〇〇〇・〇〇
第二項 會 費	二、〇〇〇・〇〇	第六項 諸雜費	三、〇〇〇・〇〇
第一項 會 費	二、〇〇〇・〇〇	合 計	六、八五一〇・〇〇

(說明) 會費一人に付十圓二百人の見

支出之部		算 高	
第一項 紀念祝典費	六、八五一〇・〇〇	第一項 紀念品費	一、五〇〇・〇〇
第二項 史印刷費	一、〇〇〇・〇〇	第二項 史印刷費	一、〇〇〇・〇〇
第三項 表彰狀費	三、〇〇〇・〇〇	第三項 宴會費	三、五〇〇・〇〇
第四項 宴會費	三、五〇〇・〇〇	第四項 通信費	二、五〇〇・〇〇
第五項 通信費	二、五〇〇・〇〇	(說明) 書留小包料を含む	
第六項 諸雜費	三、〇〇〇・〇〇	第六項 諸雜費	三、〇〇〇・〇〇
合 計	六、八五一〇・〇〇	合 計	六、八五一〇・〇〇



日本醫師會第二回總會前景

【第三號議案】大正十四年度日本醫師會收支決算案
に就ては理事の說明ありたるも、支出の部に二三の疑義ありて時節柄、議論百出となつたは皮肉の感があつた。左記十五氏の委員附任となり、

西盛之進、關場不二彦、河野徹志、中辻丹治、雨森一耶、石本於義太、森賢司、西山員光、近藤鉢太郎、溝口喜六、角賢市、片山徳治、森田彦一、佐藤次郎、岩槻經一耶

結局、第四款醫師會事業補助費を醫事衛生事業補助費と訂正する外、更に一款一項を設ける等の修正があつて可決した。尙この間内閣統計局より局長代理後藤一郎氏の三十分餘に亘る醫師と死亡診斷書に關する講演があつた。

【第四號議案】健康保險法を速かに實施せられむことを内務大臣に建議するの件
は寺邑理事説明、九四番、八番の諸氏建議理由の産業の發達と國力の涵養とを期する所以云々に就て、同法の實施に伴なひ、果して右の効果を所期し得らるべきものなるや否や、政府の同法實施に對する準備、並に醫師會の準備等如何に就て再度の說明を求めたる等、漸く緊張味を覺ゆるに至つた。結局讀會省略可決に至つた。次いで、

【第五號議案】本邦の醫業制度並營業經濟の調査に關する件
に就ては、理事岡田久男氏説明、輒近の非醫者跋扈に對する諸々の議論ありて、その調査に關する件を可決した。

折柄内務省より次の如き諮問あり、右に就て詳細は二十五日山田衛生局長の説明あるべしと會長北里男爵の報告があり、第六號議案以下を二十五日に譲り斯くて、同總會の第一日は終つし役員補缺には貞木宜保氏を充つる旨の報告があつた。

内務省發給第一三〇號
日本醫師會
關「チフス」及赤痢の預防撲滅に關し其會の意見を請ふ。

大正十三年十月二十日
 内務大臣 若槻禮次郎
 尙二十五日の協議事項は、次の三件である。

- 協議事項
 一、薬律改正に關する件
 二、齒科醫師法改正案に關する件
 三、柔道整復術にする件
 以上

日本醫師會總會出席人員

- (東京) 北里榮三郎、山田 鐵藏、林 嘯、金杉英五郎、笹川三男三、土屋 岩保、今村 重教、西山 宗義、坂本 順三、木村 榮三、(前見島) 西 盛之進、原 耕、永田 愛安、關馬不二彦、福原 資孝、(北海道) 關馬不二彦、福原 資孝、四村 榮吉、植田 潔、(福島) 白石 西三、齋藤 格、宗像 光雄、(大阪) 河野 徹志、真本 義保、宇多 弘道、原 支一、津田 正信、勝 信太郎、(三重) 久留 春三、小屋 光雄、池上延次郎、(新潟) 布川 興策、司馬名 芳、(山本晋代) 遠山 衛平、(神奈川) 渡邊 房吉、千葉 吾一、松本榮太郎、(京都) 菅野 弘一、高橋豊三郎、中辻 丹治、(千葉) 關川 謙道(内田實代)、山口唯次郎、古川 玄澄、(佐賀) 織田 簡一、久白白兼徳、大庭 忠司(保利慶次郎代)、(長崎) 雨森 一郎、村岡文之助、栗原大島太郎、(愛媛) 菅井 昇平、中川 順助、樋口 虎若、(茨城) 中崎 俊秀、大畑莊次郎、(澁谷) 行徳 健男、中川 龍田、(熊本) 藤野 亂、(奈良) 上田友三郎、島田 正治、(岡山) 石本於義太(阪田快太郎)

- (代) 中島 塚之、坪田 旭一、(宮城) 森田 八郎、引地 忠治、佐藤長七郎、(岐阜) 山田 永俊、小坂 慶二、曾我 正三、(埼玉) 横田菊三郎、森 賢司、(大分) 佐藤 官吉、帆足 恒藏、上野 三六、(秋田) 西山 貞光、高橋 軍平、(山口) 大村 充、弘中 讓三、藤本 壽一、(山梨) 飯島松次郎、梶原 富、(兵庫) 山本治郎平、鶴岡 敏二、藤岡慶次郎、田村 子吉、(群馬) 齋藤 壽雄、佐々木 潔、(群馬) 藤江 良作、(愛知) 賀古 桃次、松波 寅吉、近藤鉢太郎、加藤録五郎、菅原 幸助

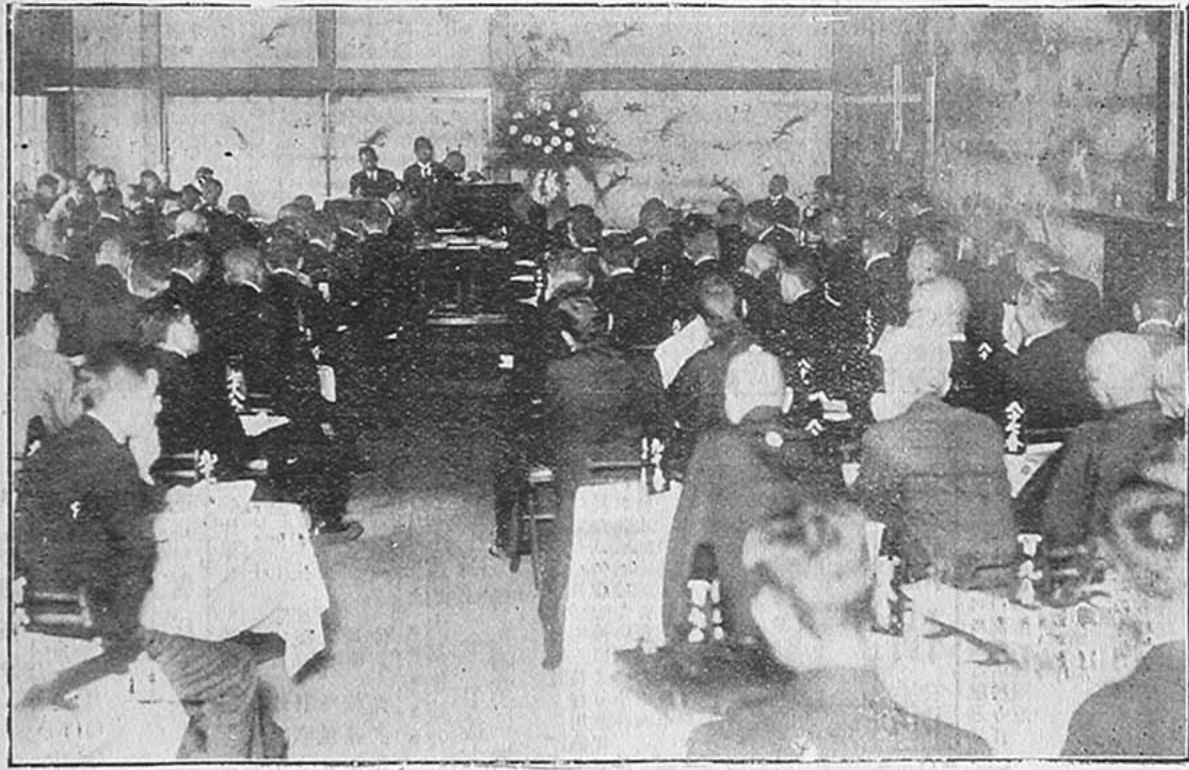
内務大臣告辭

本日茲に日本醫師會第二回總會を開臨し斯學に關する研鑽攻究を講ずるは邦家の爲寔に欣慶の情に堪へず。願ふに邦家の醫事衛生は其の發達進歩後著しきものと雖、各種傳染病の蔓延過次跡を絶たず、加ふるに乳幼兒の死亡率に至つては頗る高位に存するが如き國民保健上改善を要すべきもの尙甚多し、冀くは地方醫師會と相呼應し、協力奮勵益公衆衛生の爲力を致されむことを遂へ告辭とす。

内務大臣 若槻禮次郎

- (福岡) 瀧口 喜六、西田 熊吉、大村 秀敏、村尾 信雄、(鳥取) 角 賢市、林 秀藏、(徳島) 盛 市郎、若林 虎晋、(沖繩) 金城 清松、(高知) 片山 徳治、谷 昌方、田村 圭一、(廣島) 堀田 元三、宇野 宇助、(岡山) 月岡 陽一、竹村秀三郎、(福井) 波々伯部重政、水野桃太郎、(宮崎) 濱田三保次、杉田 直、(長野) 山口芳太郎(轟太三郎代)、(愛媛) 直市、岩附修一郎

- (鳥根) 大谷 要、野坂賢之丞、(滋賀) 吉直伊次郎、(石川) 村地 研三、四方八十郎、杉森 太郎、米村吉太郎、(富山) 山本茂太郎、(福木) 渡 英三郎、浅野虎三郎、佐藤 次郎、(富山) 野島菊三郎、左白 亮齋



日本醫師會第二回總會議場(中央議長長は北里會長)

醫制發布祝典舉行

次で醫制發布五十年記念祝典は二十四日午後一時半より、上野精養軒に開催せられた。順序次第は前號記載の如く、當日の模様は次號に於て發表。尙ほ當日の祝典表彰者氏名、(東京のみ)は次の如くであつた。

醫制發布五十年記念祝典表彰人名

- (物故功勞者)
 長興 專齋、長谷川 泰、佐々木東洋、柴田 承桂、高木 兼寛、橋本 綱常、佐藤 進、隈川 宗悦、松山 棟庵、足立 寛、高松 凌雲、永坂 周二、田代 基徳、原 履信、島居 春洋、花岡出来輔、島田 泰夫、齋木 林策、川上元治郎
- (特別現存功勞者)
 石黒 忠寛、三宅 秀、後藤 新平
- (現存功勞者)
 北里榮三郎、中濱東一郎、金杉英五郎、鈴木孝之助、野田 忠廣、鈴木萬次郎、山根 正次、北島 多一、山上 兼輔、堀 義水、八木 逸郎、片山 國嘉、原田 真吉、田村 光顯、守邑 毅一、岡田 久男、押出 俊三、註間 武彦、須田 卓爾、田中 義一、山谷徳次郎、土屋清三郎、内ヶ崎勝次郎、今井喜八
- 因みに東京以下は、紙面の都合で、次號に發表するべし。